

令和 6 年度 県立勝田工業高等学校自己評価表

目指す学校像		教育活動全体を通して、心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒の育成を図る。また、ものづくり教育を通して、グローバルな視点を持ち対応できる創造力を備え、地域や産業社会に誇りと愛着を持ち貢献できる生徒、自らの将来像を明確にイメージし、その実現のために具体的に行動できる生徒の育成を目指す。			
三つの方針			具体的目標		
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)		①心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒。②グローバルな視点を持ち対応できる創造力を備え、地域や産業社会に誇りと愛着を持ち貢献できる生徒。③自らの将来像を明確にイメージし、その実現のために具体的に行動できる生徒。		
	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)		①地域との連携を図り、活力に満ちた工業高校づくりを目指すとともに、自ら課題を見つけ、自ら行動できる態度の育成。②基礎・基本の確実な定着を図るとともに、自らの興味・関心・進路希望による科目選択学習を充実させ、個性を伸ばす教育の実践。③安全教育を実践し、安全で安心できる学校生活を実現するとともに、他人を思いやる豊かな心の育成。④ スポーツを奨励し、体力の向上と不屈の精神の錬磨に努める。		
	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)		①ものづくりや工業的な分野に興味を持ち、深く探究しようという強い意欲のある生徒。②部活動を頑張り、3年間活動し心身を鍛錬し人間性をたかめられる生徒。③自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒。④学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒。		
昨年度の成果と課題		重点項目		重点目標	達成状況
<成果> ・令和 5 年度本校総合工学科卒業生約 57%が就職(内定率 100%)、40%が進学している。大学進学者が 28 人。 ・生徒の問題行動による指導件数が少なく、頭 髪服装指導における協力体制が維持されている。 ・学校行事における生徒会活動は活発であり、部活動加入率も 70%程であり、運動部・文化部共に活発に活動している。関東大会や全国大会に多数出場した。 <課題> ・基礎学力の定着と授業や学習への取組の充実及び個々の生徒の専門性を高める指導体制の確立及び定着化が必要である。 ・体系的なキャリア教育を推進し、生徒一人		個々の希望を実現するキャリア教育の推進	B	①地元企業等との連携事業や企業体験学習を拡大・充実させ、確かな学力(生きる力)を身に付けさせ主体的な進路選択ができるようにする。 ②大学等との連携事業、大学の出前授業、自校での進学補講等の充実を図り、希望する大学への合格を目指す。 ③段階を追ったキャリア教育を行うため、キャリア・パスポートの活用を通し勤労観や職業観の育成を図り、就職希望者の内定率 100%進学希望者の合格率 100%達成を目指す。	B
		個性を生かしながら伸ばす充実した教育の実現	A	④単位制総合工学科として適切な教育課程の研究と実践に努め、授業規律の確立と基礎学力の定着に努めながら、個々の生徒の専門性の深化を目指す。 ⑤基礎資格の合格率アップを目指すとともに、電気工事士や技能検定等の高度な資格取得への挑戦者と合格者を増加させ、ジュニアマイスター取得 30 名を目指す。 ⑥言語活動の充実を通して、コミュニケーション能力を高め、グローバル化した社会に対応できる人材を育成する。	A
		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進	B	⑦主体的・対話的で深い学びの授業を目指し研究授業や、相互授業参観による授業改善を行う。 ⑧ICT を利用したわかる授業を目指した授業改善を行う。 ⑨生徒による授業アンケートで、「授業満足度」80%を目指す。	B

別紙様式 2 (高)

一人が希望する進路の実現を目指す指導の更なる充実が必要である。 ・登下校の際や校外における問題行動の未然防止に努め、生徒理解を踏まえた規範意識を育む指導を実践していく事が必要である。 ・資格指導・ものづくり講習会は活発に行われた。 ・広報活動は積極的に行ったが、令和6年度入学者選抜において志願倍率 0.98 倍で募集定員割れをした。		根幹となる豊かな心の育成と安全教育の推進	B	⑩基本的生活習慣を確立させ、規範意識の醸成と問題行動の未然防止を図る。 ⑪施設設備の点検と安全教育を充実させ、学校事故撲滅を目指す。 ⑫ホームルーム活動の活性化と、学校教育全体を通した道徳教育の推進及び、ボランティア活動の充実を図り、いじめ問題等の未然防止に努める。			B
		部活動・特別活動の更なる活性化と主体性の育成	A	⑬部活動への積極的参加を奨励するとともに、生徒の自主的活動の活発化と学校行事への主体的な参加を促す。 ⑭特別活動の充実を図り、学校行事等を通して自発的・自治的な態度の育成に努める。			
		学校内外への充実した広報活動の推進	A	⑮開かれた学校づくりを目指し、中学校への出前授業や公開授業を実施するとともに、学校のホームページを通して地域や保護者・中学校等へ情報を発信することで、本校の特長をアピールする。 ⑯PTA 行事等の保護者への周知を図り、参加を促すことにより PTA 活動の活性化を図る。			
		教職員相互に業務内容の改善と平準化に取り組み、時間外勤務縮減に向けた意識改革と行動改革の推進	B	⑰各校務分掌ごとに業務内容の重複を点検と整理に努め、教職員の在校時間の適切把握と健康管理を推進する。 ⑱業務内容改善のために、指導の質の維持・向上を図りつつ継承、整理・統合、精選等を検討する。 ⑲授業準備や自己研鑽の時間を確保し、より質の高い授業や個に応じた指導を行うため、地域や保護者に理解を得ながら、学校や 教員が担う業務を整理し、ICT の有効活用により、学校の実態に即した情報の共有化や会議の効率化等に努める。 ⑳茨城県の部活動運営方針及び本校の部活動等に係る活動方針により、実施環境を構築する。			
評価項目		具体的目標	具体的方策			評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上を図る。	社会人として必要な国語常識を身に付けさせるために、問題集やテキスト等を積極的に活用する。また、資格取得に向けた課外や、進路に合わせた小論文指導などの個別指導を行う。	④⑩	A	B	基礎学力の一層の向上を目指し、課題提出の習慣化と小テストの活用や漢検活用等でさらに力をつけさせたい。 ICT 機器の活用を進め言語活動の一層の促進に繋げたい。
			授業でのルール及びマナーを身に付けさせるとともに、ノート等を定期的に点検し、授業に対する真摯な取り組みを習慣づけさせる。	④⑩	A		
			言語活動を積極的に取り入れ、判断力や表現力、互いを理解する力を育成する。	⑥⑦	B		
	地歴	授業の改善を目指す。	指導方法や内容について話し合い、必要に応じて I C T 機器を活用するなど、授業の充実と改善に継続して取り組む。	⑥⑧	B	B	クラスルームや視聴覚教材、電子黒板でのスライド資料を積極的に活用して、わかりやすい授業を目指した。また、学習ノートを定期考査ごとに回収して評価するなど、教科とし
			授業を受けるマナーを向上させることで落ち着いた学習環境をつくり、基礎学力の定着を図る。	④⑦	B		
		基礎学力の向上を図る。	学習ノートを積極的に活用し、定期的に評価することで学習意欲を高める。	④	A		
			学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。	④	B		
			導入や教材を工夫することで学習意欲を高める。	④⑨	A		
			分かる授業のために授業形態など指導方法を工夫する。	④⑥	B		
			視聴覚教材や史資料を積極的に活用し、生徒の資料活用能力を培い理解を促進する。	④	A		
指導方法の工夫と研究を行う。	ICT 機器を積極的に活用し、生徒の自主的な活動を促す。	④⑧	A				

別紙様式 2 (高)

						て統一して取り組むことができた。学習内筒の理解が不十分な生徒に対する補修や課題といった指導は、積極的に開催することができなかったもので、次年度以降の課題としたい。
	公民	基礎学力の向上を図る。	授業を受けるマナーを向上させることで落ち着いた学習環境をつくり、基礎学力の定着を図る。 ④⑦	B	A	クラスルームや視聴覚教材、電子黒板でのスライド資料を積極的に活用して、わかりやすい授業を目指した取り組みを進めることができた。さらに、現代に即したテーマを扱うことで、生徒の興味を引き出し、学習意欲を喚起することができた。また、学習ノートを定期考査ごとに回収して評価するなど、教科として統一して取り組むことができた。学習内筒の理解が不十分な生徒に対する補修や課題といった指導は、積極的に開催することができなかったもので、次年度以降の課題としたい。
			学習ノートを積極的に活用し、定期的に評価することで学習意欲を高める。 ④	A		
			学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。 ④	A		
		指導方法の工夫と研究を行う。	導入や教材を工夫することで学習意欲を高める。 ④⑨	B		
			視聴覚教材や史資料を積極的に活用し、生徒の資料活用能力を培い理解を促進する。 ④	B		
			ICT 機器を積極的に活用し、生徒の自主的な活動を促す。 ④⑧	B		
	数学	基礎学力の向上を図る。	基礎学力が定着していない者や成績不振者に対して、学力向上を助けるために補習を行う。 ④	A	A	・基礎学力を定着させることが厳しい生徒が一定数いる。教科教員

別紙様式 2 (高)

			定期的な課題の提出等を利用し、学習の理解度を確認する。④	A		は協力して個別指導や補講など最大限の努力をしており、来年度も継続していきたい ・数学検定を3名受検。2名合格、1名一部合格とよい結果であった次年度も実施したい
			授業中の机間指導を通して、学習の遅れがちな生徒を把握して補足説明を随時行う。④	B		
		生徒希望に応じた学力の向上を図る。	より深い内容の学習を希望する生徒のために、課外や検定試験を実施する。②⑤	A		
	理科	基礎学力の向上を図る。	生徒の理解度を確認しながら、プリントによる補足や小テストの実施によって、基礎学力の定着と向上を目指して授業を進めていく。④	A	A	・机間巡視、小テスト、プリント学習によって生徒の理解度を確認しながら授業を進める事ができた。 ・実験や演示実験をする機会が少なかったため、資料集や教科書などを参考に、実験や演示実験を増やすと良いと感じた。 ・電子黒板やクロムブックを利用し、映像を見せ、問題演習を繰り返す事によって、生徒の理解を手助けすることができた。
		理科に対する興味・関心を深めさせる。	担当者間で話し合い、日常生活と科学技術との関わりを意識した授業を展開し、理科に関する興味・関心を高め、主体的態度を身に付けさせる。④⑦	B		
		生徒が理解しやすい授業への改善に努める。	小テストなどを取り入れ、生徒の理解度を把握しつつ、電子黒板やタブレットを利用し、生徒の理解を手助けする教材を活用する。④⑧	A		
	体育	自己の基礎体力の向上を図る資質・能力を育成する。	体力テストでの目標設定を明確にし、意欲的に取り組ませる。④	A	B	・体力テストのA判定の人数を増やすために、基礎体力の向上を目指した活動計画を立てることが重要である。 ・個人の健康への意識を高めるために、ICT
		運動の実践による運動の多様性・体力の必要性を理解する。	球技において種目を選択させ、生徒達で練習計画を立てて競技を進める能力を身に付けさせる。競技特性を理解し、取り組みを通して協力する態度を養う。④	B		
		生涯を通じて運動に親しんでいく能力や体力を育てる。	球技において種目を選択させ、生徒達で練習計画を立てて競技を進める能力を身に付けさせる。競技特性を理解し、取り組みを通して協力する態度を養う。マラソンの授業を通じて体力の向上と運動を習慣化できるようにする。⑦⑧	B		

別紙様式 2 (高)

		個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。	日常生活における健康や安全について関心を持ち自己の健康管理・安全行動に活かすことが出来る。	⑥ ⑦	B		を効果的に用いて課題解決型学習を進めることを目指したい。
	芸術	一人一人の個性を生かしながら、伸ばすことができる授業に努める。	基礎的な描く力、つくる力の定着を図るとともに、個性を生かすことのできる授業づくりに努める。	④	B	B	基礎的な課題を通して力をつけられるよう工夫した。授業内アンケートで意欲的に取り組めたと答えた生徒は90%と高かった。次年度はICTの更なる活用を目指したい。
			美術Ⅰ・Ⅱの授業において、絵画・デザイン・立体などの分野を問わず、生徒による授業アンケートで「授業満足度」80%を目指す。	⑨	A		
		安全教育の徹底を図る。	材料・用具類の整備と管理を確実に行うと共に、正しい使い方や活動前の準備と後片付けなどの指導を徹底する。	⑩⑪	B		
			授業を受けるマナーの向上を定着させ、課題に対して落ち着いて取り組める雰囲気づくりに努める。	⑩	B		
	英語	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけさせ、基礎的な能力を身につけさせる。	毎時の授業を通して、円滑なコミュニケーションのとれる生徒を育てる。	③	B	B	・ICT を効果的に活用することで、より生徒が理解しやすい授業展開を行っていききたい。 ・資格取得の1つとして英検に挑戦する生徒を増やしていくこと、またその英検指導により力を入れていきたい。
			分かりやすい授業を工夫し、基礎的な文法力と語彙力を身につけさせる。	④⑦	A		
			リスニング検定などを有効に活用し、実践的な英語力を身につけさせる。	④	A		
		異文化理解を深める。	ALT との Team-Teaching や英語による授業を展開することにより、英語に多く触れさせる。	⑥	B		
	家庭	自分の生き方に関わる内容を学習することで、常に「今」より充実向上した生活が図れるような能力と実践力を育む。	生涯発達の視点で、家族や家庭生活のあり方を理解させ、よりよい家庭を築いていくことの重要性を認識させる。	④⑨	A	B	実習は生徒の技術力に大きな差があるため、より効果的な指導方法の検討が課題である。またさらなるICT活用の改善も必要である。
			家族の生活が健康で安全に営むことが出来るよう、高等学校家庭科技術検定やICTを活用しながら衣・食・住・保育・福祉・環境・消費生活に必要な知識と技術を習得させる。	④⑧	B		
			ホームプロジェクトを通して自分の生活を見つめなおし、家庭生活の改善向上のため主体的解決をはかる実践力を身に付けさせる。	④⑥⑧	B		
	総合工学	教科指導の充実を図り、基礎・基本の定着と専門性の向上に努める。	工業の基礎・基本となる重要項目を習得させるために、各種教材やICT機器等を活用した分かりやすい授業を展開する。生徒の視点に立った授業改善に取り組む。指導計画の中で、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組む。	④⑦⑧	A		実習においてもタブレットを活用する機会が増えてきたが、分かりやすい授業と有効的なICT機器の活用について検証する必要がある。老朽化・消耗している設備・機器もあり、計
			実習を通して専門的な技術・技能の習得に努めるとともに、地元産業界や大学・専門学校等と連携しキャリア教育の充実を図る。生徒の視点に立った授業改善に取り組む。指導計画の中で、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組む。	① ② ③	A		
		安全教育の徹底と施設・設備の維持管理に努める。	安全教育を徹底し災害防止に努めるとともに、災害事例を学び、実習服や保護具の正しい着用と安全作業(知識・技能・態度)について指導する。	⑦ ⑪	B		

別紙様式 2 (高)

			実習室等の整理整頓と施設・設備の安全点検を定期的実施するとともに、カリキュラムに ⑪ 対応した施設・設備の充実を図る。	A	A	面的に保守整備や更新していく必要がある。漏電点検の継続。チャレンジプロジェクト及び外部指導者による実践指導、各種資格取得指導における指導体制の構築が必要である。
		各種資格取得を奨励する。	各種資格取得指導において中長期的な計画に基づいた指導により合格率の向上を図りなが ⑤ ら、意欲的に生徒が挑戦できる土壌を構築する。	A		
			外部指導者（マイスター制度）を招聘して、必要なスキルを学び、資格取得を通して社会に ⑤ 直結する新しい技術を学ぶ。	B		
		何事にも誠意をもって取り組み、やり遂げることの重要性を意識させる。	基本的な生活習慣の確立と集団としての自覚をもち、善悪の判断ができる生徒の育成を目 ⑩ 指す。	B		
			本校の校訓である「正しい判断・強い意志・清い生き方」に自覚と誇りをもち、ものづくり ⑥ を通して、将来、社会に貢献できる人間の育成をめざす。	A		
教務		新教育課程の円滑な実施。	教育課程検討委員会を中心に、各校務分掌・教科・年次と連携を図り、授業・評価方法等 ④ の改善と円滑な教育課程の実施を推進する。教育課程委員会を通して、「主体的・対話的 で深い学び」の実現に向けた授業改善の実施・推進に努める。	A	A	校務支援システムを利用した成績処理・要録作成等において、誤入力やミスが発生しないように情報管理部と連携して対策する必要がある。
		学校 PR・広報活動の充実。	広報委員会を中心に各分掌・各教科と連携し、中学生対象の学校説明会、部活動体験、中 ⑦ 学校訪問等を計画的に実施する。また、学校パンフレットや学校ホームページ等の広報資 料の充実を図る。	A		
		校務支援システムの活用と情報管理部との連携協力。	情報管理部との連携協力体制を強化し、校務支援システムの運用整備、改善を図る。特 ⑮⑯ に、出欠登録・成績処理・要録作成業務等を円滑に行えるよう、連携を図る。	B		
情報管理		各種管理システム運用の推進。	校務運営に関して ICT 機器を活用した効率化、自動化を推進。教員の校務負担減につな ⑰⑱⑲ がるようなシステムの提案と運用。校務支援システムのマニュアル化と関係各所との連携を 密にすることで、円滑な学級経営につながるようシステムの運用を図る。	A	A	校務支援システムへの迅速な不具合対応やホームページを活用した積極的な情報発信に努めることができた。また、新規システムの提案および運用を行った。校務端末の適切な管理および更新、設備機器の適切な点検と必要部署への機材供給を次年度は遂行したい。
		個人情報取扱規程の整備。	個人情報の管理の徹底に努め、情報管理における規範意識の向上に努める。事案の共有やセ ⑪ キュリティの強化など、職員全体で個人情報管理における情報共有を図る環境の醸成。	A		
		インターネットを活用した広報活動の推進。	ホームページを活用した情報発信、各種メディアや情報媒体を活用し多方面に向けての情 ⑮ 報発信を積極的に行う。また、生徒確保のための広報以外にも近隣の小中学校教職員向けの 情報発信を行い、本校の実態や地域としての産業を支える工業高校を再認識してもらう。	B		
		ICT 機器の積極的な授業および校務での活用推進	授業における ICT 機器の使用を推進することで、双方向で対話的な授業を展開し授業の理 ⑦⑧⑨ 解度の向上をはかる。ICT 機器を活用し主体的・対話的で深い学びの授業の展開。	A		
庶務		PTA 総会等各種行事の連絡を、PTA 会員や PTA 役員に対し確実に言い、連携を密にす	PTA 総会等各種行事の連絡を、できるだけ早い時期に確実に、PTA 会員や PTA 役員に ⑯ 対して言い、各種行事等への参加率を高める。	B	A	PTA 関係の業務や勝工祭などの行事を協力、連携して遂行する。
			PTA の広報紙を通して、学校の教育活動や PTA 活動を工夫し PR する。	A		

別紙様式 2 (高)

	る。				
学習指導	基礎学力の向上と定着を図る。併せて進学希望者に対し学力の向上を目指す。	更なる学力の向上につなげるために、1 年次に基礎学力を重視した指導をする。学年と協力し、ICT を用いての基礎学力の定着を図る。進学希望者について進学課外・出前授業への参加を通し、進学に対しての意欲を高めるとともに、学習にたいする意識を強める。	② ④	B	B
	選択制を活かして、学習意欲の向上と専門性の深化を目指す。	卒業後の進路を生徒が考える際、進路につながる科目の選択を考えさせるようにし、進路に関わる学習に対しての意識を高めるとともに、保護者との連携を密にする。	③	B	
	資格について啓蒙し、推進する事を目指す。	進路との連携や顕彰制度を利用することで生徒の資格取得への意欲を刺激する事で、意識を高める。	④	A	
特活指導	学校内外への広報活動の推進。	学校のホームページを通して地域や保護者・中学校等へ情報を発信し、本校の生徒会活動や部活動の特長をアピールする。	⑮	B	B
	ホームルーム活動を活性化する。	年間計画に基づき各ホームルームの活性化を図るとともに一層具体的な活動が行えるように努める。また、各分掌から出されるテーマを L H R に反映し効率的な学級活動を展開する。	⑫	B	
	部活動への積極的参加を促す。	各部活動資料を活用し、実演などを取り入れた PR を行う。また、部活動参加率が全生徒の 7 0 % 以上になるように働きかけ、参加率の増加と意識の高揚を図る。	⑬⑭⑯	B	
生徒指導	基本的な生活習慣と規範意識の確立を図る。	基本的な授業態度の育成、学習習慣の確立、遅刻の減少を図る。(遅刻カードの活用)	⑩⑫	C	B
		登校指導・昼休みの巡視を 1 日 2 名で通年実施する。また定期考査期間中に生徒の帰宅状況を確認するために校外巡視を実施する。	⑩	B	
		HR における交通安全教育、交通講話(外部講師)の実施することや、自転車点検、生徒による街頭指導を行うことにより交通マナーやルールを守る心を育て、命の大切さを呼びかける。	⑩⑫	B	
		薬物乱用防止教室を実施して身体における有害性と薬物中毒の怖さを指導する。	⑩⑫	A	
	将来社会人として必要とされる容儀等を助言することで規範意識の高揚を図る。	服装容儀等を指導する機会を設け、全職員で生徒の自主性を持たせながら社会における規範意識と自立を促す。	⑩	C	
	学校教育全体を通した道徳教育を推進する。	指導を行う中で、生徒自体が他人を思いやる豊かな心の醸成に努める。また、いじめ防止および早期発見のため「生活アンケート」を利用し生徒への実態把握に努める。	⑩⑫	B	
		携帯電話や情報端末機器における使用マナーや保管、管理について指導する。	⑩⑫	B	
進路指導	望ましい職業観・勤労観を育成する。	学年・他公務分掌と連携し計画的な進路指導を 1 年次より行い、自己の能力・適正を見出し生かす職業観を育成する。	① ② ③	B	
		インターンシップや進路セミナー等を通じて、職業観・勤労観の育成に努める。	①②③	A	

資格取得に向け多くの生徒が頑張っている。ジュニアマイスター顕彰制度では、「ゴールド」が 2 名が出るなど、例年と同様の結果を出すことができた。

基礎学力向上については、生徒の自主性を踏まえた指導ができたものと考えられる。

2 年次、3 年次の選択科目において人数制限の検討をする必要があると思われる。

大学出前授業も、ほぼ計画通りに実施することができた。また、理系の内容ばかりでなく、文系の出前授業も必要である。

ある程度生徒たちが納得いく学校行事を行うことができたが、今まで以上に生徒と連携を取りながら物事を進められるようにしていく必要がある。

・今年度の生徒状況が昨年度と比較してかなり変化したことにより規範意識の低下が著しくみられた。そのため、容儀等に問題ある生徒や自転車盗難など問題点が多く起こり教員自体も対応に苦慮した。今までにまして校内連携強化が課題となった。

就職内定状況はほぼ 100 % となり当初の目標を達成できた。

進学に関しても同様

別紙様式 2 (高)

	生徒一人ひとりの進路希望に応じた進路指導の充実を図る。	企業への求人要請を進めるとともに、それぞれの企業が求める人材の的確な把握に努め、就職希望者の内定率 100%を目指す。 ①③	A	B	で目標を達成できた。 インターンシップも 20 名を超える参加を得て昨年より増加した。 地域との連携は昨年同様であり今後の連携を模索したい。
	進路情報の共有と提供を図り選択の幅を広げる。	進学希望者が学部学科を適切に選択できるよう大学・専門学校との情報交換を進める。 ②	B		
	地域との連携を深め、地域が求める人材育成を図る。	3 年次と連携し、保護者会や三者面談で進路に関する情報を積極的に提供する。 ①②③	A		
	危険防止と環境整備のために清掃活動や校内安全点検を継続実施する。	環境整備委員会を中心に、全学年一斉清掃・環境整備に取り組む。安全点検表を利用して清掃分担ごとに月一回の点検を行い、改善すべき箇所がある場合には迅速に対応する。 ⑪	A		
保健指導	生命尊重に関する教育を実施する。	勝工安全の日に、全校生徒を対象として、生命尊重に対する講話を実施する。1 年次を対象に、専門講師を迎えて性教育・救命救急(AED)講習を実施する。 ⑫	B	A	・今年度と同様に校内の安全・衛生と、生徒・職員の健康な生活を維持するための取り組みを引き続き行う。 ・感染症対策の徹底と啓発を図る。
	病気やけがを予防するための対策の充実を図る。	病気やけがについて、正しい知識と現状に合った情報伝達を心掛ける。感染症対策を継続する。 ⑩	A		
図書	情報提供サービスの向上と充実を図る。	レファレンスサービス、リクエスト予約サービスの充実に努める。 ② ④ ⑤	A	B	ミニ図書の継続。
		生徒の知的好奇心と興味を抱かせる書籍の選定と購入に努める。 ④⑧	B		全校生徒に向け、クラスルーム等の活用をする。
	図書委員会活動と行事の充実を図る。	図書委員会活動を通じて図書館とクラスのパイプ役としての意識を高める。 ⑫⑭	A		委員会活動を活性化し各クラスからのリクエストを受付する。
		読書会や研修会、芸術鑑賞会等の行事の充実に努める。 ⑭	A		次回の芸術祭実施についての検討。
	施設の有効利用と環境整備の充実を図る。	自学自習の場としての図書館の利用を促進する。 ①②③	B		担当職員が休み時間に常駐できるように計画する。
		利用簿等の活用により、授業・LHR 等で視聴覚室の利用促進を図る。 ④⑫	B		HR の年間計画に利用予定を計画する。
1 年次	基礎的・基本的な知識・技術・技能を身に付けさせる。	真摯な態度で授業に臨ませる。提出物の期限を守らせる。資格・検定試験に意欲的に取り組ませる。家庭学習を習慣化する。 ③ ④ ⑤	B	B	本年度から、計算技術検定を全員受験させるなどして検定試験に意欲
	基本的生活習慣を確立させ健全な高校生活を送らせる。	時間を守り、自主的に挨拶・返事ができるようにする。身近なルールやマナーを守らせ、安全で安心な高校生活を送らせる。 ⑩⑫	B		
	協調性や他人を思いやる豊かな	積極的に学校行事に参加させ、協調性や思いやりを身に付けさせるとともに、集団生活の中 ⑥⑦⑪	B		

別紙様式 2 (高)

	な心を育てる。	で責任ある行動がとれるようにする。自分の存在意義を認識させる。部活動に積極的に参加させる。			
2 年次	健康管理に心がけ、何事にも全力で取り組むことのできる意欲と体力を育成する。	自己管理能力を養う。高校生活における身体的・心理的な安全を最優先させる。そのため保護者との連携を密にとるよう努める。 ⑮⑯	A	A	○ 2 者 3 者面談を通し、情報の共有。
		規則正しい生活ができるように高校生としての自覚を持たせ、規範意識の向上に努める。また、社会的信頼の大切さを認識させる。毎日の清掃と教室の整理整頓を徹底させる。 ⑪	A		○公共物や共同物を大切に扱う意義を図る。
	将来を見通し、高校生活の中で得られる知識・技術・技能の習得に努めるとともに、豊かな社会性を身に付けさせる。	インターンシップ・工業現場実習・企業見学等を通して職業意識を持たせ、進路決定の準備を始めさせる。 ① ②	B		○進路指導部と早い段階で情報共有と生徒へのアナウンスの徹底。
		ICT を活用した分かる授業を目指し、進路希望に応じた学習を推し進めることを通じて、基礎力の充実を図る。また、資格取得を通じて知識・技術・技能のより高い習得を目指す。 ⑤ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	A		○ICT を積極的に活用し、授業だけではなく、進路活動にも活かしたい。
	基本的生活習慣を確立させ健全な高校生活を送らせる。	時間を守り、自主的に挨拶・返事ができるようにする。 ⑩	A		○社会に出る前の準備期間を 2 年次の早い段階から意識させる。
		身近なルールやマナーを守らせ、安全で安心な高校生活を送らせる。 ⑫⑭	B		
	協調性や他人を思いやる豊かな心を育てる。	積極的に学校行事に参加させ、協調性や思いやりを身に付けさせる。 ⑬	A		
		集団生活の中で責任ある行動がとれるようにする。自分の存在意義を認識させる。部活動に積極的に参加させる。	B		○心の教育(講話)と道徳的時間の必要性。
3 年次	一人一人の適性を踏まえた上で、具体的な進路目標を現実のものとしていく。	進路指導部と連携し、社会の現状を把握するとともに、適性検査結果や面談での助言等をもとに、生徒に自分自身の適性を冷静に判断させ、その能力・適性に応じた進路指導を推し進める。 ① ② ③	A	A	○調査書や履歴書など進路に関する事務的な部分は、進路指導部・情報システム部と密な連携をとる。 ○進路決定後の生活の崩れや学習意欲の減退を防ぐため、適宜面談や声掛け、保護者等と連携を図り粘り強い支援・指導に努めていく必要がある。 ○ラーケーションに関
		保護者と密な連携を取りながら、学校生活の安全を最優先させ、きめ細かい助言をしていく。 ⑩⑪	A		
		授業に真剣に取り組むことにより、知識・技術・技能のさらなる習得に努めさせる。また、ICT を活用した分かる授業を目指し、進路希望に応じた学習を推し進めることを通じて基礎力の充実を図る。 ④⑥⑧	A		
	ひとりの人間としての社会常識を身に付けさせることはもちろんのこと、他人を思いや	校則や公衆道徳を尊重し、進んで守ることにより、社会規範意識の向上を図る。 ⑩⑫	B		

別紙様式 2 (高)

	る心を育てる。また必要に応じて我慢強さと忍耐力を発揮できるようなたくましさを育成する。	挨拶を励行し、他人への思いやりを忘れない心をさらに育てる。⑫⑬⑭	A		して、学校としての共通理解が必要なのではないか。(1週間前提出・保護者自署など) ○変革期の中における生徒指導の在り方について
学校運営	豊かな心の教育の充実を図る。	学校行事や特別活動での細やかな生徒指導を通して、基本的な生活習慣を確立し、倫理観や規範意識を高めるとともに、いじめなど問題行動の未然防止に努める。⑩⑫	B	B	○道徳の授業が無くなって、「公共」の授業だけでなく全ての機会を捉えて心の教育を充実させることが重要○情報教育は計画通り働きかけられたが、国際理解教育は機会が少なかった。○積極的な広報活動と、小学校への出前授業も実施できた。○地元企業と商工会議所、大学と連携が図れた。内容を充実させ生徒のキャリア教育につなげることが重要
	情報教育と国際理解教育の推進を図る。	授業や各種行事を通じて情報教育と国際理解教育を積極的に推進する。④⑥	B		
	地域の中学校との連携を図る。	地域の中学校と出前授業や交流事業など積極的な広報活動を通じて中学校との連携を図る。⑮	A		
	地元企業や大学等との連携を推進する。	地元企業や大学等との連携を更に推進し、進路指導・キャリア教育の充実を図る。①②③	A		

※ 評価規準：A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない